

中核病院協議会から 市長へ検討結果を報告

中核病院協議会において、これまで4回の会議で検討、協議を重ねられた結果について、八木田 眞光会長、大島昌子副会長から市長へ報告がありました。

市はこの報告を受け、市内部での検討や関係機関との調整を行い、速やかに市としての方針を決定します。



報告書を提出する八木田会長(中央)と大島副会長(右)

中核病院協議会での検討結果(要旨)

- 人口が減少しても地域に必要な医療は守るべきであり、地域の医療機関と連携し、地域医療の拠点としての役割を担う中核病院は必要との意見が大多数であった(不安や反対の意見もあった)。
- 中核病院を形成する手法については、萩市民病院と都志見病院が統合し、一定の規模や機能を有した中核病院を形成する手法以外の具体的な提案はなかった。
- 財政負担について、萩市の一般会計、病院それぞれのランニングコスト(運営費用)とイニシャルコスト(初期投資費用)の概算見込みが示されたが、その適否を本協議会で判断することは困難であるため、今後、専門家を交えた別の場や市議会ですっかりと議論をお願いしたい。
- 地域で安心して暮らすためには、医療環境の確保は必要不可欠であり、地域活性化、まちづくりの観点からも非常に重要である。萩市におかれては、本協議会における委員の意見を踏まえ、市としての方針を速やかに決定され、中核病院の形成に向けた議論を進めるとともに、持続可能な医療体制の構築に、行政、市議会、関係機関、市民が一体となって取り組まれるよう努めていただきたい。

中核病院協議会

医療関係者と市民代表の委員、計18人で構成。萩の地域医療(急性期医療、二次救急医療など)の現状を踏まえ、地域医療を維持していくためにはどのような手法が良いのか、これまでの市民病院と都志見病院の統合案も含め、協議、検討を行いました。

～開催状況～

- ・第1回 7月16日 これまでの検討の経緯、ゼロベース検討の考え方など
- ・第2回 8月27日 イニシャルコストの概算、財政支援など
- ・第3回 10月7日 統合後の病院の収支見込み、市の財政負担の見込みなど
- ・第4回 10月26日 中核病院協議会の報告内容の確認



これまでの協議会資料は市HPに掲載しています。

中核病院とは

地域の医療機関と連携し、地域医療の拠点としての役割を担う病院のことをいいます。病床数や診療科の種類等の基準はありません。かかりつけ医では難しい専門的な検査や治療を行い、さらに高度な治療が必要な場合は、大学病院などに紹介します。

問 中核病院形成推進室 ☎ 21-3120